



道歯技広報

The Bulletin of the Hokkaido Dental Technologists Association

2015 Spring No.3

Contents

- 巻頭言「安心と安全」のブランド「ばあちゃんの膝枕」
- 学術「明日からできる！CAD/CAM 臨床」、「歯周病ってどんな病気？」
- お知らせ：第2回社員総会開催案内、会員研究発表の募集
- 第142回北海道歯科技工学術研修会報告
第3回北海道障がい者歯科技工士研修会報告、第59回北海道歯科技工学術大会報告
歯科技工用語手話研修会報告、第1回北海道歯科技工技術研修会報告
見える話、新入会員の紹介
- 理事会報告

PC用ホームページ <http://www.dougi.or.jp/top.html>

携帯用ホームページ <http://www.dougi.or.jp/keitai.html>

巻頭言

『「安心と安全」のブランド「ばあちゃんの膝枕」』

近頃、テレビ・ラジオなどで一日に一回は「安心・安全」という言葉を耳にします。

今の人々にとって「安心と安全」はそこに在ってあたりまえのものではなく、特別に意識して確認しなければいけないものになっているのかもしれない。

私が幼い頃の話ですが、当時、両親は共働きで、兄と姉も歳が離れていたことから学校から帰るといつも玄関の鍵が閉まっていた、自分で鍵を開けて家へ入る所謂「鍵っ子」生活をしていました。そんな中、毎年秋になると祖母（ばあちゃん）が大きなカバンを持って我が家を訪れ、数カ月間一緒に暮らしてくれました。末っ子で甘えん坊の私にとって、それはとても待遠しいことで、何よりも家に帰って玄関の鍵が開いているということがすごく嬉しくて、茶の間に背中を丸めてチョココンと座っているばあちゃんの姿を見て安心するのです。

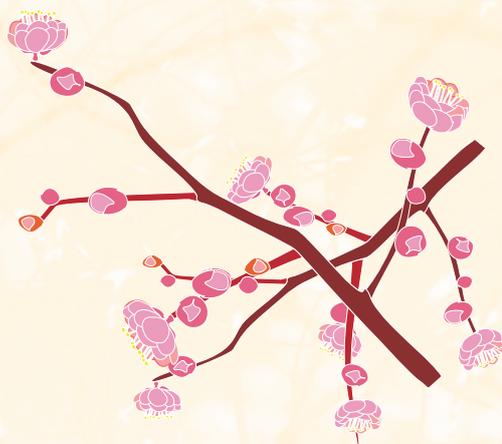
そして、そんな「ばあちゃんの膝枕」は、私にとって安心で安全な場所のひとつでした。そこは、なんとなく心地よい香りがするところで、今で言う香水とかオーデコロンのようないい香りではなく、俗に言う年寄りの匂いでした。しかし当時の私にとっては決していやな匂いではありませんでした。「腹がへった。」と言えいつも持ち歩くばあちゃんの旅行カバンの中からはいつの物とも分からないアメやお菓子を出してきて「はい」と渡してくれました。今思うと、まわりが柔らかくなったアメやら、しけた煎餅でしたが、消費期限などという言葉もあまり聞かない時代でしたから、なんの不安もなくばあちゃんがくれたアメやお菓

子を美味しいと食べていました。そこには子供ながら、無条件で「ばあちゃんがくれた！」という「安心と安全」の信頼があったのだらうと思います。

さて、私たち歯科技工士にとって「安心・安全」との関わりはどうでしょうか。人が物を食べるという行為の最初の入り口環境に携わっているのですから、安心で安全な設備・環境の下に安心で安全な歯科補綴物等を作成することが第一の使命です。歯科技工士一人ひとりがしっかりとその使命を果たすことは言うまでも無いことですが、その一方で、私たち歯科技工士一人ひとりの安心と安全に対する姿勢を人々に知ってもらうこともまた必要です。そこには組織としての力も重要になります。

『公益社団法人北海道歯科技工士会』それは関わる全ての歯科技工士が社会に貢献し、「安心・安全」を第一の使命として業務に従事する優れた歯科技工士が集う組織である！

そんなブランドを作るために、安心で安全、信頼できる「ばあちゃんの膝枕」になるために、これからも努力していきましょう。



●● 「明日からできる！CAD/CAM臨床」 ●●

株式会社キュステデザイン 濱本 範俊

はじめに

平成26年4月より保険診療において、小白歯に対し歯科用CAD/CAM装置を用いて、ハイブリッドレジン歯冠補綴装置（全部被覆冠に限る）を設計・製作し、装着することが認められました。

今まで歯科用CAD/CAM装置は、主に自費技工でしか使用することがないものでしたが、健康保険の適用により、クラウンブリッジの歯科技工においては避けて通れないものとなりつつあります。

CAD/CAM用のハイブリッドレジンブロックは、一般の硬質レジン築盛作業で生じやすい気泡混入・重合不足等の技工上のエラーを発生することなく、高レベルかつ安定した品質の補綴装置の製作が行えることが最大の特徴ですが、従来の材料に比べ、口腔内に装着する際に注意を要する場合があります。

そこで、CAD/CAMシステムの紹介や、CAD/CAM材料における接着の注意点などを紹介します。

CAD/CAMとは

一般に、「CAD」とはComputer Aided Designの略で、設計作業をコンピューター支援により行うことができるソフトで、「CAM」とはComputer Aided Manufacturingの略で、製造（生産）をコンピューター支援により行うことができるソフトである。



歯科でのCAD/CAMシステムとは

模型を読み込むスキャナー、デザインするCADソフト、加工データを作成するCAMソフト、材料を加工する加工機から成り立っている。

製作する概要は、口腔内にて支台歯形成、印象採得し作業用模型を製作します。次に、スキャナーを用いて作業用模型の三次元計測を行い、作業用模型の形状データをコンピューターグラフィックスとして再現し、作業用模型の形状に適合するクラウンの設計（モデリング）を行います。その形状データが加工用データに変換され、ハイブリッドレジンブロックからクラウンが自動的に削り出されます。最後にクラウンを作業用模型の支台歯に適合させ、表面を研磨し、患者の口腔内に装着します。（設計だけを自社で行い、削り出しは他社へ依頼することも可能）



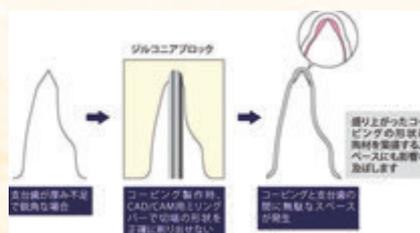
CAD/CAMの現状

CAD/CAMシステムは、歯冠補綴装置を設計・製作する際、数値的にものを考えられるようになっており、経験や技術に頼ることが少なく、コンピューター上であらかじめ製作内容を詳細に検討してから決定できるので、知識を伝授しやすい。また、設計データが保存されているため、何度でも同じものを作り出すことができます。しかし、機材が高額なため導入によるリスクが高いです。



CAD/CAM 冠とは (厚生労働省からの定義)

CAD/CAM 冠用材料との互換性が制限されない歯科用 CAD/CAM 装置を用いて、作業用模型で間接法により製作された歯冠補綴物です。CAD/CAM 冠用材料は、シリカ微粉末とそれを除いた無機質フィラーの2種類のフィラーの合計が60%以上であり、重合開始剤として過酸化物をを用いた加熱重合により作製されたレジンブロックであること。1 歯相当分の規格であり、複数歯分の製作ができないことが条件です。



口腔内装着について

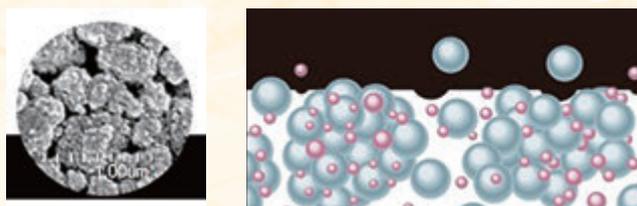
CAD/CAM 冠 (ハイブリッドレジンブロック) の装着において、メーカーなどの推奨は接着です。さらに言えば、プライマー併用型の接着セメントを用いて行うことを多くのメーカーが推奨しています。

ハイブリッドレジンブロックは未重合のモノマーが殆どないため、レジンセメントとブロックのレジンを科学的に接着されることが難しいです。そのため、ブロックの無機質フィラーを処理し、フィラーと接着させる必要があります。つまり、セラミックを接着させる時と、同じ手順で行った方が良いと考えられます。

CAD/CAM 冠 (ハイブリッドレジンブロック) の特長

1. 熱重合による成型により気泡が少なく、高い物性 (曲げ強度など) が得られる。
2. 未重合のモノマーがほとんどない。
3. ペースト操作性の要求特性がないので、フィラー種をメーカー側が自由に選択できる。研磨特性や歯ブラシ摩耗特性を調整できる。

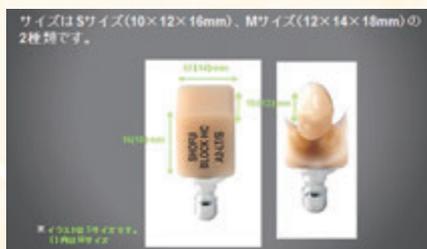
※2種類の無機フィラーを使用しているレジンを、ハイブリッドレジンと呼び、そのハイブリッドレジンをブロック状に成形したものをハイブリッドレジンブロックと呼びます。



※右の写真 白がレジンで丸がフィラー (イメージ)

CAD/CAM 冠を加工する際の注意点

歯科用 CAD/CAM 装置を用いて、ハイブリッドレジン冠を製作する際は、CAD/CAM 装置の特性を正しく理解しなければなりません。今までの技工と大きく違う点は、加工する材料の大きさに制限があるため、製作できる歯冠の大きさが制限されることです。



※松風ブロック HC の場合のサイズ

また、切削器具のサイズによって内面の形状が左右されてしまうため、支台歯の形態にも注意が必要です。

まとめ

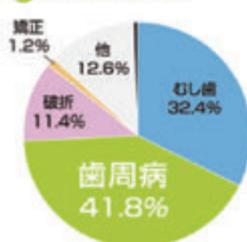
近年、患者中心の医療が叫ばれ、医療消費者である患者様の主体的な意見を尊重した歯科医療を実践する歯科医院も増えてきています。補綴においては、機能性・審美性を加味した理想的な補綴オプションを提示し、患者様に選択してもらわなければならないため、歯科技工士が歯科チームとして加わるのは必然といえます。

私たちの仕事の目標は、患者様の口腔の失われた機能と審美性を回復し、幸せになってもらうことです。そのためには歯科医療上、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士間の密なチームワークが不可欠であり、歯科技工所間の連携も、チームワークを円滑に進めていくためにも、必要であると考えています。

『歯周病ってどんな病気？』

歯周病とは？

① 抜歯の主要原因(全体)



歯周病とは、歯肉（歯ぐき）や歯槽骨（骨）など歯を支える歯周組織が炎症により破壊されていく病気です。

むし歯に比べあまり知られていませんが、私たちが歯を失う原因として最も多いのは、むし歯をしのいでこの歯周病です。その原因はさまざまですが、症状を自覚しにくいので重症化してから気がつくことも多い疾患です。

歯を失うことはもちろん、それ以外に心疾患や呼吸器系の疾患、糖尿病や出産など命にも関わるさまざまな全身への影響を与えることがわかってきています。※財団法人8020推進財団：永久歯の抜歯原因調査報告書；2005. 3

一見問題なさそうに見えますが…



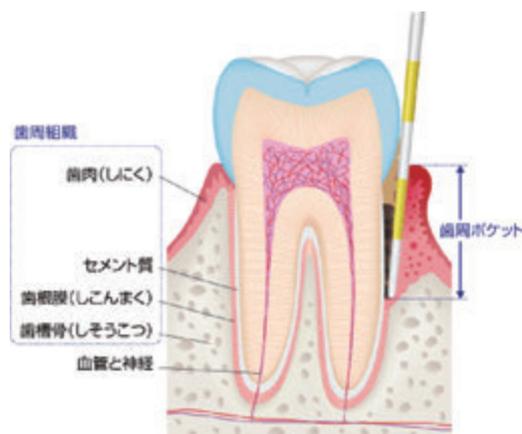
健康な人のX線写真

X線写真で見ると歯を支える歯槽骨がなくなってきています。

口の中がネバネバするようになるなど、「少しおかしいかな?」と思ったときは、もうこうなっているかもしれません。

歯周組織ってどこ？

歯周組織の名称



歯肉炎と歯周炎

歯肉炎

歯周病の初期の状態。

炎症が歯肉に限られていて、まだセメント質、歯根膜、歯槽骨の破壊は起こっていない状態です。



歯周炎

歯周炎は炎症が歯肉に限らず、そのほかの組織にまでおよんだ状態です。

進行すると歯を支える歯槽骨などが破壊されていき、歯を支えることができなくなり、歯が抜けてしまいます。(MI21.net)



お知らせ

●● 第2回社員総会開催案内 ●●

下記日程で社員総会を開催いたします。

日時：平成27年5月9日(土) 午後1時より

場所：北海道歯科技工士会館3F（札幌市北区北37条西4丁目3-8）

議題：(1)平成26年度決算及び活動報告について

(2)平成27年度収支予算（案）及び活動計画（案）について

(3)その他

●● 会員研究発表の募集 ●●

下記の学術大会での会員研究発表を募集します。

第60回 学術大会 北見市 平成27年10月2日(土)予定

第61回 学術大会 札幌市 平成28年1月16日(土)予定

講演料（五千円）広報掲載原稿料（五千円）

お問い合わせ

〒001-0037 札幌市北区北37条西4丁目3-8 公益社団法人北海道歯科技工士会 TEL 011 (717) 7155

●● 第142回北海道歯科技工学術研修会報告 ●●

釧路歯科技工士会 高野 嗣直

第142回北海道歯科技工学術研修会が、去る平成26年11月1日(土)に釧路市学習センター「まなぼっと」に於いて開催されました。当日は札幌等、遠方からも参加頂くなど、会員、未入会員、歯科医師等70名程の受講者を迎えて会場は満席となり、補助席を用意するほど盛況でした。

当日は公益社団法人北海道歯科技工士会 狩野副会



長の司会で、杉岡会長の挨拶を皮切りに、最初の講演は公益社団法人北海道歯科技工士会理事 工藤三重子先生による『見える話、ワンポイント講座～歯科技工における手話～』で始まり、日頃なかなか触れる機会の少ない歯科技工に関する手話について易しく分かりやすく講演して下さいました。次に

公益社団法人北海道歯科技工士会 戸島和之常務理事による『平成26年度診療報酬改定の概要と先進医療の保険導入について』の講演があり、



CAD/CAMについての認識や、保険点数改定に伴う技工料金を見直す意識の大切さ等を講演されました。その後、(株)キュステデザイン代表 濱本範俊先生による『明日からできる！CAD/CAM 臨床』というテーマで講演がありました。講演はCAD/CAM元年とも言える本年らしい内容で、臨床経験豊富な濱本先生の実践に則した特徴、技法、今後の展望について、興味深い講演をしていただきました。これから広まるであろうCAD/CAMは、導入後も様々な疑問等があり、今後も学ぶべきテーマで、講師の濱本先生もさらにやりたい内容があると述べられていました。その後、杉岡会長による、今後の歯科技工士会の展望についての講演があり、研修会を終えました。

最後にこの度の研修会に於いてご尽力いただいた講師の諸先生、各地域歯科技工士会の会長様、そしてご参加頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

平成26年度 第3回北海道障がい者 歯科技工士研修会報告

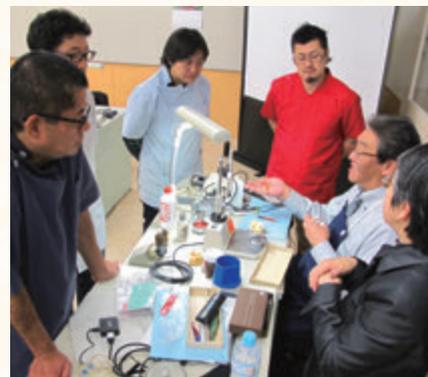
理事 工藤三重子

平成26年11月8日(日)午前10時より、吉田学園医療歯科専門学校に於いて、松平浩先生を講師にお招きし、第3回北海道障がい者歯科技工士研修会が開催されました。講師の松平先生は、最初に歯科技工を教えてくださいました先輩が、聴覚障害のある方だったことで、実習の際には講師自ら手話を時折交え、受講生とのやりとりをしながら進められました。

実習は金属床のワックスアッ



プで、明日からの仕事にも役立つように、設計の理論から始まり、埋没に関する機器や材料の変遷など、充実した研修となりました。この日の研修は通常1～2日間かけて行う内容で、待望の講師による研修でもあり、研修終了後、受講者の皆さんは講師を囲み、記念写真を撮っていたのが印象的でした。



第59回北海道歯科技工学術大会報告

札幌歯科技工士会 高山 光

平成27年1月17日(土)12時15分より札幌全日空ホテルにおいて、第59回北海道歯科技工学術大会が開催され、会場は320名を超える参加受講者で席を埋め尽くしました。



会員研究発表は、札幌歯科技工士会の鈴木宮穂子氏が「CAD/CAMの可能性」、同じく札幌歯科技工士会の植田歩氏が「歯科技工士のやりがいと職場環境について」と題して発表されました。共に女性である



演者が女性比率の高まっている歯科技工業界で、CAD/CAM導入より、女性歯科技工士の目指す道や、女性の活躍の場も広がる可能性など、女性が安心して働きやすい環境を整えるための取り組みについて発表されました。

講演Iは、日技認定講師である佐藤幸司先生より「総義歯臨床学のガイドラインと根拠」と題して講演していただきました。総義歯の臨床技工で大切なことは、担当歯科医師による正確な印象採得と咬合採得から、人工歯配列を適切なガイドラインにより、患者固有の顎堤に沿って効率よく実践することだとされていますが、日常の臨床において、絶対的な診断法の確立は未だに完成されていません。臨床で迷った症例に遭遇した場合に、根拠ある臨床的ガイドラインがあれば、経験値のみではなく、より効率的な咬合平面の設定と咬合術が重要となります。上下顎の臨床模型を組織学的に分析し、歯冠修復学・インプラントの歯科技工にも役立つBPSの補綴的ガイドラインを、より客観的にお話しいただきました。また、桑田先生との歴史をスライドで紹介いただきました。

講演Ⅱは、クワタカレッジ校長である桑田正博先生より「歯科界におけるチーム医療の在り方 修復治療の変遷、そしてこれからの歯科治療」と題して講演していただきました。1960年代初め、金属焼付ポーセレン開発当初に行ってきた臨床、1970年代にはどのような過程を経て発展してきたのか、そして1980年代の成



熟期に行ってきた修復治療が、2000年代に口腔内でのように機能しているのか、臨床を経年的に、数十年にわたって検証していただきました。貴重なスライドの数々に、会場からも感動の声が溢れていました。



講演Ⅲは小樽商科大学商学科 准教授 現代商学専攻 加藤敬太先生より「歯科医療従事者における経営セン



スの磨き方」と題して講演していただきました。良い歯科医療を世に提供するためには、経営学を学ぶことは不可欠であり、歯科医療ならではの価値創造に向けて手探り経営から脱出する方法と、考え方を伝授していただきました。やはり価値づくりの経営にはヒトが重要で、価値創造とは「こと創り」です。そして、ビジネスモデルの実践にとって大切な人材になること、育てることをお話ししていただきました。

大寒も近く交通機関が止まる中、全国から多くの歯科医師、歯科技工士、歯科技工士学校学生の参加者にお集まりいただいたの学術大会は大盛況に終る事が出来ました。最後になりましたが、今回ご協力していただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

● ● 歯科技工用語手話研修会報告 ● ● 『見える話～歯科技工における手話～』

理事 工藤三重子

平成27年1月18日(日)午前10時～12時、北海道歯科技工士会館に於いて、歯科技工用語手話研修会を開催しました。「手話は知らないが歯科の知識はある方、または手話は出来るが歯科技工の手話については知らない方、あるいは両者に興味のある方、見える言葉でお互いの世界を共に広げませんか。」ということで、歯科技工士を主に歯科医療関係者、手話通訳関係団体にご案内しましたが、皆様に周知していただくには時間が足りなかったと反省しております。

当日は荒天でしたが、デフ歯科技工士協議会から会員2名、手話通訳者4名、歯科技工士5名の合計11名の参加をいただきました。2グループに分かれ手話での自己紹介、「歯科技工士とは」などの情報交換の中での専門的知識や技術を伝え合い、新鮮で興味深い研修となりました。デフ歯科技工士協議会副会長の山内

氏より「身近な方々もお誘い合わせの上ご参加ください。」とのお話がありました。

次回は会報などで早めにご案内させていただきますので気軽にご参加ください。お待ちしております。



平成26年度 第1回北海道歯科技工技術研修会報告

理事 廣田 高志

平成27年1月24日(土)午後1時から、北海道歯科技工士会館において、平成26年度第1回北海道歯科技工技術研修会が、開催されました。講師に長谷川久美子先生をお迎えして、『怒り・イライラのコントロール術を身につけようアンガーマネジメントでストレスレスに』という演題で、ご講演していただきました。講演では、最初に怒り・イライラがどのようにして発生するのかを、お話していただきました。次に、発生してしまった怒り・イライラを、どのようにコントロールしていくのかを、三つの暗号《6秒・三重丸・分かれ道》で説明していただきました。1つ目の《6秒》とは、怒りの出来事が発生してから長くて6秒たてば、



怒りのピークが過ぎてくること。2つ目の《三重丸》とは、「べきの境界線」で、①自分と同じ・②少し違うが許容可

能・③自分と違う許容できないことの、自分の中での分別です。3つ目の《分かれ道》とは、そのことに対して、変えられるか(コントロール可能)、変えられないか(コントロール不可能)という思い込みの分かれ道です。この三つの暗号を使い、例を挙げながら詳しくご解説していただきました。最後に、日常生活の中で、怒りとは何かをすることのエネルギーにもなり、決して悪いものではなく、その怒りをどのように対処するか、コントロールするかが大切で、「上手に怒り、ストレスをできるだけなくしていきましょう」とお話していただきました。



我々も、日頃よりこのような事に気をつけて生活する事が必要と考えさせられました。

見える話

「歯科技工に関わる手話」(3)

今回は歯科衛生士、補綴物、全部床義歯です。

3. 歯科衛生士

		
歯科 (口形：シカ) 人差し指で、(歯)を指し示す	衛生 (口形：エイセイ) 左掌を水平にし合わせた右掌を指先方向にずらす (手話→きれい)	士 (口形：シ) (士→資格をもった人) 右手で指文字シを左肩側におく

4. 補綴物

		
<p>補（口形：ほ） 親指と人差し指で入れ歯を入れる動き（手話：義歯）</p>	<p>綴（口形：てつ） 左手ぐーの上から右手指先をややすぼめた状態でかぶせる（手話：冠（クラウン））</p>	<p>物（口形：ぶつ） 右手人差し指と親指をレの形にし左から右へ手首を3回ひねりながら移動させる（手話：物・など）</p>

5. 全部床義歯（フルデンチャー）

		
<p>全部（口形：ぜんぶ） 掌を下に両手揃え、上部中心部から円を描く（手話：全部）</p>	<p>床（口形：しょう） 右の手の平を下に向け左側からやや曲面を作りながら右側まで移動させる（手話：床）</p>	<p>義歯（口形：ぎし） 親指と人差し指で入れ歯を入れる動き（手話：義歯）</p>

● ● 理事会報告 ● ●

● ● 平成26年度第5回理事会報告 ● ●

■日 時：平成26年12月6日(土)
午後16:00~18:00
■場 所：北海道歯科技工士会館

1. 会長挨拶要旨

今年最後の理事会、公益法人になり第一回地域組織会長懇談会11月に開催、皆様の協力を得て無事終了、地域歯科技工士会の会長にも公益法人に対し理解が深まった。情報が正しく伝わり、会への協力も理解があったこと目指しているものに近づいていると実感した。あらためて皆さんの協力を感謝する。本で行われた来年度役員改選に向けた選挙管理委員会、参与会では60周年事業の体制について説明、さらに盛り上げようと協力をいただいた旨、挨拶があった。

2. 承認事項

- (1) 第4回理事会議事録承認の件 ……………【承認】
(2) 事業及び派遣役員承認の件 ……………【承認】
1月の地域歯科技工士会と他団体の新年会については例年三役が対応、会長一任で決定後J-MOTTOで連絡する。
(3) 第59回北海道歯科技工士会学術大会について ……………【承認】
①北海道歯科技工士会主催の学術大会の案内は締切日を1月7日、文言修正後、札幌歯科技工士会に確認し、各地域歯科技工士会に対し改めて北海道歯科技工士会から正式に行う。それに伴う費用は道技が負担する。
②学術大会後の交流会については、札幌歯科技工士会が案内する。
(4) 生涯研修用備品購入承認の件
①プロジェクター (EB-1975W) について ……………【承認】
②タブレット端末 iPad について ……………【承認】
(5) 第143回北海道歯科技工士会学術研修会承認の件
函館・釧路の学術研修会で行った戸島常務理事の講演と工藤理事の講演追加、講師4名の打診をする。 ……………【承認】

3. 協議事項

- (1) 公益社団法人北海道歯科技工士会創立60周年記念大会について記念誌はCD、観覧会規模の祝賀会を想定する旨、地域組織会長懇談会でも確認、今後のスケジュールを組む旨、報告。

4. 報告事項

- (1) 平成26年度第1回地域組織会長懇談会について
報告書は広報第2号に掲載。
(2) 事業実施マニュアルについて
社員総会と理事会開催マニュアル案作成提出。
(3) 11月までの予算執行状況について
(4) 第142回北海道歯科技工士会学術研修会について
地域歯科技工士会会長の交代により意思の疎通が不十分であった。研修会そのものは良かったが今後の反省としたい旨、報告があった。
(5) 第2回障がい者歯科技工士研修会について
顛末書の通り、専門的な内容の手話通訳者は一人のみだったが良い研修会となった。閉会のことを役員が練習し手話で表現されていた。
(6) 2014年度障がい者実技研修会について
4名の参加あり、松平氏の講義と金属床のwax-upを実施した。講師は手話ができ受講者との会話もスムーズだった。日常の技工にも役立つ内容も加味され充実した研修となった。決算書については書面の通りとの報告。
(7) 広報2号について
12月10日発行、新人紹介は紙面の都合上、次回掲載する。
(8) 11月末組織現況について
会員数573名、上向きになるには年20~25名の入会者が必要との報告。
(9) 機関紙「LILAC」(案)について
進捗状況と内容について説明・報告あり、新歯科技工士に無料配布も考えている。A3サイズ両面印刷、年度内発行のために一任。 ……………【承認】
(10) 歯科技工用語手話研修会の案内について
北海道ろうあ連盟、北海道手話通訳問題研究会、札幌市手話通訳問題研究会、歯科衛生士会、歯科医師会に近日案内の説明。
(11) 日技理事会報告について
来年度各県技でも60周年事業が開催され日技の会長表彰依頼は早め対応のこと。日本歯科技工士会も含めて約200団体加盟のところでTPPについての説明会参加。国民医療推進協議会(40医療団体加盟)にも古橋前会長の時から加盟している。新卒入会推進費の上半期の支援額が決定したので進めて欲しい。10月の会員状況について北海道572名、大阪、東京、北海道、愛知、福岡の順。大阪は新卒者全員入会で100名増、府・支部会費とも無料、今後の推移に注目。
道の場合は公益法人なので考慮が必要。
学術事業に関係して、資格者会員の学術振興費として100円支払っていた分を都道府県技の教育研修事業の実績に沿って助成申請、12月には上半期の額が決定。
10月4日入れ歯感謝デー(日技の社会貢献事業)、日技のHPに様子掲載、BSでも放映。628名の一般市民が参加した。10月8日(入れ歯

の日)、9月24日(歯科技工士の日)。

歯科技工料調査(隔年実施)を記入しやすい様式に変更。硬質レジン追加した。実態の把握を続け、適正料金の方向へ。給与表の変更について厚生労働省は了承、人事院も変更(短大2卒から短大3卒)の目処がつきそうだ。次は教育年限と歯科技工指示書についての法的な課題。

● ● 平成26年度第6回理事会報告 ● ●

■日 時：平成26年1月24日(土)
午後4時30分から午後5時30分
■場 所：北海道歯科技工士会館

1. 会長挨拶要旨

昨年の漢字は「税」ということでしたが、子供たちの選んだ漢字は「楽」、「明」、「夢」と続き、暗い話題の多い中、我々も歯科技工士を明るいイメージにしなければならぬこと、歯科技工士になりたいという学生も減り続ける中、今年、日本歯科技工士会も60周年を迎えることから、新しい歯科技工士会を模索していきたいこと、残りの任期も5月までとなり、次期執行部にしっかりと引継ぎをしていきたいことを含め新年の挨拶があった。

2. 承認事項

- (1) 第5回理事会議事録承認の件 ……………【承認】
(2) 事業及び派遣役員承認の件 ……………【承認】
(3) 第143回北海道歯科技工士会学術研修会承認の件 ……………【承認】
プログラムの変更、以前承認済みの手話通訳など情報保障の事前申し込みをお知らせに追加、デフ協議会に事務より別連絡。(今後も同様)
(4) 生涯研修用備品購入承認の件 ……………【承認】
プロジェクター購入についてエプソン EB950WH に機種変更。
(5) 優秀学生表彰承認の件
各学校より1名ずつ、計3名の推薦書あり。今年も副賞として歯科技工関係の書籍を贈呈する。 ……………【承認】

3. 報告事項

- (1) 渉外関係
各地域歯科技工士会新年会、各種新年会に出席の役員より報告。
(2) 平成26年度北海道医療技術者団体連絡会協議会第2回理事会について
事業中間報告、6月30日地下歩行空間で行われたパネル展の報告。
(3) 12月までの予算執行状況について
(4) 第59回北海道歯科技工士会学術大会について
未入会25名、会員169名、学生102名、その他16名315名の出席あり。未入会員が受付せず参加した例が報告され、早急に対策を検討する。
(5) 11回歯科技工用語手話研修会報告
告知期間が短く情報が行き渡らなかった。顛末書にて報告。
(6) 広報3号について
学術大会の会員研究発表の募集を毎月掲載する。会員研究発表の講演料・広報掲載原稿料は各5千円、その他原稿料は無となっている旨の再確認。 ……………【承認】
(7) 12月末組織現況について
(8) 12月末入退会者について
(9) 就労対策業務マニュアルについて
(10) 組織拡充支援金支給拡充について
催事受講アンケートを日技に提出することで1名千円の還付が受けられる。今後各地域歯科技工士会に周知する。札幌歯科技工士会などで行ったが、会員及び未入会員の対応を厳格にする必要がある。
(11) 日技理事会について
歯科技工士連盟関係について、本年4月1日から歯科技工士国家試験全国統一化のための法が施行される。人事院規則医療職俸給表の改正も歯科技工士に関する制度推進議員連盟の議員の方々の働きにより、短大3卒が加わり、高卒が削除される。歯科技工士養成校の修業年限延長と歯科技工委託に関する関係法令等の整備については、引き続き推進していく。
日技の活動方針については、日技新発展7プランの38項目について6年かけて行うこととする。生涯研修にも力を入れ、社会認知されるようにする。また、有識者懇談会が21年前に行われたがその答申が実現できていないことから改めて、外部の委員を迎え総合政策審議委員会を5回の予定で行う。10月16、17、18日日本歯科技工学会と共に日技60周年記念大会を福岡にて開催する。歯科技工士の会員数は相変わらず減少しており、大阪府技の取り組みにある入会金無料、年会費、支部会費を2年間無料にするということも推移を見たい。公益法人としての支出も学術研修の目的で新人研修を増やしていくことが良い施策の1つになる。
歯科技工所の広告も誤解を招くものがあるので、その都度、毅然と対応する。
(12) 離島派遣事業について
今後患者数の減少により補助歯科技工士の派遣について中止するか、道庁より話があれば対応する。